

<h1>月報</h1>	<p>日本キリスト改革派 横浜中央教会</p>	<p>1月号 2011年1月16日</p>
-------------	-------------------------------------	----------------------------

新しい年に

立石章三

今年の週報1号の論壇に「信仰の成長を目指して」と題して、聖書の学びに励み、私たちの信仰を今一步成長させようと言いました。ここでは今年の教会生活の点で具体的な改善点や企画など、思いつくままに書きます。

1、祈禱会に出席しましょう：水曜日の午後7時から開かれている祈禱会は、教会の公の祈りとして重要なものです。私たちはいつも個人で祈っていますが、他人の祈りを聞いて、「なるほどそういう問題が教会にあるのか」と知って、アーメンと唱和するのは、教会の共同の祈りとして大事なことです。どなたでも年に1回、月に1回と、具体的な目標を決めて出席を心掛けましょう。またイースター前の4月22（金）受難日の礼拝は、今からスケジュールを空けておきましょう。

2、週日の婦人会に祈禱会を持ちましょう：第1・3火曜日の読書会と、第2・4水曜日の聖書の勉強会の終わりには祈禱会を持ちましょう。いつもは主の祈りだけで閉じていましたが、せっかくの機会ですから、これからは短く祈りの時を持ちたいと思います。

3、家庭集会を復活させましょう：週日の午前でも午後でも、年に1回家庭を解放して下さる方を募集します。近隣の教会員が集まって、またご近所の方を誘って、聖書の学びと交わりの時を持ちます。

4、訪問祈禱会をします：これは方法を考えねばなりません、年に何回か、水曜日の午後7時からの祈禱会を、会員の家庭で行うものです。この時だけは午後8時開始としても良いでしょう。

別の方法は、夜の家庭礼拝に牧師が訪問するという考え方で、その家庭が行う夜の家庭礼拝に、牧師と長老(都合がつけば)と一緒に参加して祈るというものです。これは各家庭の都合に合わせて、何曜日でも、何時でも構いません。これも会員が年に1回、各家庭を提供して下さることによってできることです。

5、学び会、準備会をします：受洗、信仰告白、加入などを考えている方は、牧師がいつでも準備会をしますのでご相談ください。

6、一泊修養会：2003年9月に御殿場の東山荘で一泊修養会を行い、帰路は教会墓地の富士霊園を訪問しました。それ以来2004年から2010年まで、秋の一泊修養会は連続7回とも、野島青少年研修センターで行いました。企画委員会で検討していただきたいのですが、今年は新しいメンバーが増えたことでもありますから、再び伊豆、御殿場、三浦半島などで行うことを考えましょう。もちろん今年すぐにはなくて、来年以降でも結構です。もし今年10月に行うとするなら、各自今から毎月1000円づつ積み立てれば、秋には1万円になります。教会でバスをチャーターすることを考えても良いでしょう。

思う事

C . K

主イエスキリスト様の賄いに依る祝福の下に横浜中央教会が、1999年に天王町のこの地に立てられてから10年以上が過ぎました。横浜での伝道が開始されから年数をかえりみると30年以上が過ぎています。主の慈しみに依り横浜中央教会の今が有る事を感謝しつつ、今思っている事を幾つか記して見ます。

今、母子室と呼ばれている部屋は、本来授乳室として作られた物で、礼拝中に授乳の必要やオムツの取り換えの場であったはずの所が、礼拝中の乳・幼児の遊び場となって居るのはおかしい。公同礼拝は、創造主・賄い主を理解し信じる大人だけの礼拝の場ではなく、全ての人（老若男女）に開かれている場であり時です。この礼拝に連れて来て子供は説教が理解出来ないからと隔離的に扱うのは短絡的ではないかと思って居ます。親と共に着き、参加させるのが望ましい。只、二時間近く大人と同じ様に参加させるのは酷な面も有るので、工夫をする必要は有ります。

会堂 融資金返済

一億円以上を要した会堂建築の為の資金は多く支援を受け、上地購入、会堂建築が行われました。融資金の返済もこんな巨額を返せるのかとの不安がありました。執事会、小会の返済計画を会員の皆様が受け入れ、融資金返済会計に励んで下さり当初に比べ大幅に減少しました。年報の「会堂建築一覧表」などを見て下さい。これは大変感謝な事です。神様が私たちを用いて御名をこの地に表して下さっています。

天王町商店街は今、例に漏れず衰退の道の中にある様です。この地の特徴を考えこの街に福音をどの様に伝え、根付かせて行くか考えなければなりません。牧師が指導して行って居る「第四子供会」の様な集い、催しを具体的に考え行っていく事がこれからの横浜中央教会の発展には必要です。これと共に、西口教会時代よく話題に上っていた、伝道地に関する意識も再び掘り起こす必要があるのではと思います。当時と比べ人・物は豊かになっている今の時にタラントの譬えを思い出すべきではないか。

月報発行が久し振りに昨年は、毎月欠ける事なく出されました。様々な要因がありますが、月報係の二姉妹の働きに負う処が大きいと共に皆様の御理解が得られ原稿が集まって来たからです。これからも宜しくお願い致します。

献金には幾つかあります。席上献金、維持献金、感謝献金、記念献金、融資金返済献金など。これら全ては、神様から与えられている恵みを感謝し、献げ納めお返しする物です。全ての献金は感謝の表れとして行うから、礼拝行為と言われています。

教会教育研修会

M . Y

昨年11月14(日)に東京恩寵教会で行われた、第二回教会教育研修会に出席しました。

現在、私は教会学校(CS)で幼稚科を担当していて、神様のことをどの様に伝えたらよいか?他教会の分級はどの様に行われているのか?とっていましたので、とてもよい機会でした。子ども達は、初めて会う先生や違う教会の子ども達とも楽しく遊びながら、自然と神様の事を学び摂っている感じで、今後の分級に役立てたい事が多くあり参考になりました。また、各教会で幼稚科を担当している方々とCSについての分科会ではそれぞれのCSの取り組みを伺いました。CSの進め方は、それぞれ違いや特徴がありますが、共通している願いは、子ども達が楽しく神様について学ぶことができ、続けて通ってもらいたいというものでした。私も当教会の子ども達に続けて通ってもらいたいと思っています。そこで、その為に色々工夫をしている東京恩寵教会のお話を紹介します。

小さな赤ちゃん~6歳という年齢の子ども達を、ひとくくりのクラスにするのは、成長の度合いにも大きく差があるのでクラスを分けて分級を行っているそうです。また、この年齢の子ども達は一人では通えないので、親御さんの協力が必要なので親御さんにも関心をもって頂けるような、お手紙を発行しているという事でした。

このお手紙には、CSの事や子ども達と毎回歌う曲の歌詞、子どもの体調や最近の家庭での様子、教会学校や教会に対して日ごろ思っている事をお聞かせ下さいといった内容が記載されています。

とても興味深く当教会でもとりいれる事ができたらいいなと思いました。当教会のCSは、多数の子ども達に恵まれ感謝しています。

しかし、小学校を卒業するとCSに出席しなくなってしまう子ども達が多いというのが現状です。中高生になっても続けて出席してもらうためにも幼児の親御さんだけでなく、小学生の親御さんに向けても何か発信できるのではないかと考えます。

日頃から、教会員の方々にはCSにおいて協力をして頂き、感謝しています。そして、これは私個人の意見ですが、教会員の方々にも今まで以上にCSに興味をもっていただき、子ども達と少しでも触れ合っただけだったら嬉しいです。